

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

学力向上検討委員会構成

児安小学校
「学力向上実行プラン」

PBS を活用した授業の実践

- 児童の実態に応じたカリキュラムマネジメントによる基礎学力の定着
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（話し合い活動の充実）
- できるようになったことの自覚・共有につながる評価の工夫

学力向上推進員 株田 沙耶香	委員	校長	南郷 孝嘉
		教頭	田邊 幸代
		教務主任	新居 美絵
		研修主任	佐藤 淑恵
		下学年推進委員	上原 孝太
		上学年推進委員	坂口 友啓

校長

南郷 孝嘉

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○前向きに粘り強く最後まで課題をやり遂げる。 ○新しい技能や学習の習得に積極的に取り組む。 ○課題に真面目に取り組むことができる。 ○ペア学習やグループ学習で個々のよさを発揮する。 ●集団行動の中で、まだ規律が十分に身についていない様子がみられる学年がある。 ●語彙が豊かであるとは言えない。 ●学力の基礎(姿勢の保持、声の大きさ、家庭学習等)が定着していない。 ●基本的な問題には意欲的に取り組むが、応用問題になるとじっくり考えようとしていない。 ●自分で解決しようとする力が乏しい。	・学習の基礎・基本の定着を図る。 ・基礎的・基本的な知識・技能を身に付け、それを様々な学習場面で活用することができる。 ・辞典や資料、ICT 機器等から適切に情報を収集することができる。 ・友達の見聞を聞き、自分の考えを深めたり修正したりする力を身に付ける。 ・読書活動の習慣を身につける。 ・読書や辞書、ICT機器の活用等によって、語彙を増やし、それを表現に用いることで語彙を身につける。	・児童に応じた課題を提示する。 ・視覚支援になるものを効果的に活用する。 ・授業の中で、自力解決の時間を十分に確保し、個別指導を徹底する。 ・单元の中で、応用問題を解く場面を設定する。 ・児童一人一人のつまづきを捉え、学習状況の改善を図る。 ・ICT 機器を効果的に活用し、児童の個別最適な学びにつなげる。 ・月末に「チャレンジテスト」を行い、学力の定着を図る。			

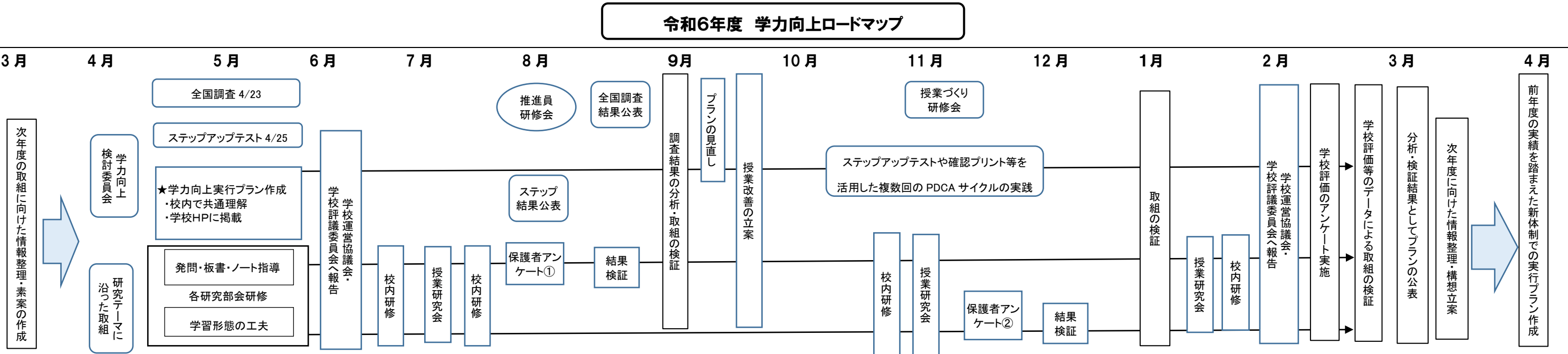
(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを進んで発言できる児童が多い。 ○音読を上手にすることができる。 ○話し合い活動に積極的に参加し、自分たちで意見を出し合い交流することができる。 ○ペア学習やグループ学習で、自分の意見をしっかり伝えることができる。 ●友達の見聞や話を聞くことが苦手である。 ●友達の見聞を否定することはないが、	・多面的な見方や考え方ができ、自分の考えを一人ひとりがもち、それを伝えたり、友達の見聞を認めたりすることができる。 ・語彙を習得し、いろいろな表現方法を知ることができる。 ・学習活動に積極的に取り組み、自分の意見や考えを自信をもって発表することができる。	・学習活動のスモールステップ化や細分化を図り、個々の児童に対応できるようにする。 ・体験的な活動を増やす。 ・話し合い活動や少人数活動での意見交流の場面を意図的に設定する。 ・朝の会の一分間スピーチや、朝会での発表場面の設定をする。 ・自分の考えや立場を筋道を立てて話したり、書いたりすることができるよう、発達段階に応じた指導を行う。			

全てをよいと認めてしまう傾向がある。 ●感想を具体的に伝えることが難しい。 ●大切なことや話の要点を理解する力が不十分である。 ●課題についてじっくり考えたり、思考を豊かに表現したりする力が不十分である。					
---	--	--	--	--	--

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○読書活動の充実を図っており、読書が好きな児童が多い。(本に興味を持って読むことができる。) ○できるようになったことを続ける力がある。 ●基本的な生活習慣が不十分な児童がいる。(早寝やメディア時間、朝ご飯等) ●主体的に取り組む場面での二極化(積極的と消極的)が進み、固定化されている。 ●家庭と連携した「おうち読書」の定着が課題である。 ●宿題の提出率は高いが、自主学習の時間は、個人差が大きい。	・基本的な生活習慣を身につけることができる。 ・成功体験を積み、自分の意見や考えに自信をもって発表することができる。 ・目標をもって読書や学習に向かい、疑問点や興味関心のある事柄を進んで調べたり学習を深めたりできる。 ・学習過程において、学びを振り返り、学習の達成度や自分のよさ、今後の課題等を自覚することができる。 ・自分の「できる」「できた(成功体験)」を増やし、達成感を味わい、進んで学習に取り組むことができる。	・指示を簡素化し、取り組みやすくする。 ・活動の流れやルーティーンを明確化する。 ・養護教諭や栄養教諭との連携を行い、生活指導を並行して行う。 ・調べ学習や豊かな読書を推進するために、ICT機器や図書等、言語環境や学習環境を整備する。 ・ポジティブな行動支援に年間を通して計画的に取り組む。 ・児童のできたことを可視化して称賛する。 ・「児安ブックリスト」「おうち読書」「スマイル読書」等を活用し、読書をする時間を意図的に設け、読書推進活動を実施する。 ・市立図書館や県立図書館との連携を図り、効果的に利用する。			



〇〇学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
〇認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長
---------	----	----

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組みたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつぶやきを全体で共有し。課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいかなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまづきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図れる授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和6年度 学力向上ロードマップ

